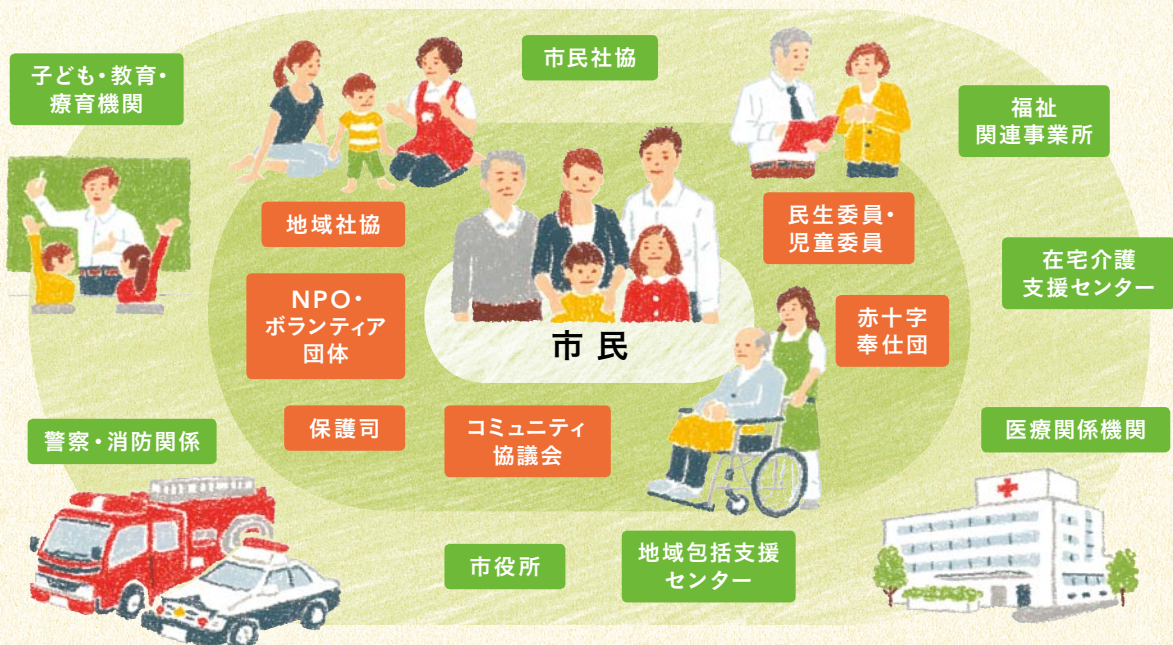


市民による 市民のための 地域福祉活動

武蔵野市には、福祉や子育て、防災など市民の暮らしに密接した課題に対し、地域で活動する団体や関係機関が互いに連携を取って対応する体制があります。

市民が住んでいる地域で必要な支援を受けられるよう、市と連携して市民の生活をサポートしている団体や市民の活動を紹介します。



〈地域リハビリテーションのイメージ〉

すべての市民が
安心して生活するために

高齢の方や障害のある方にとって、また日中地域から離れるお勤めの方や学生などにとっても、安心して日常生活を送ることができ、地域の存在は大切です。その大切な地域を市民同士で支え合うことが地域福祉の活動です。昔ながらの地域での「お付き合い」があれば、ちよつと困ったときに近所の方が手を差し伸べてくれるかもしれません。近年武蔵野市では、マンションなど集合住宅の増加や、単身でお住まいの方、高齢者のみでお住まいの方が増え、地域の支え合う力が、ますます求められるようになっていきます。

市では、第五期長期計画において、「地域リハビリテーションの推進」

を重点施策とし、最優先に取り組んでいます。これは、すべての市民が住み慣れた地域で安心して生活できるように、行政が直接サポートするだけでなく、市民や団体、関係機関など地域生活に関わるあらゆる人・組織と連携し、生活の質の向上を目指していくようなものです。

生活の中で生じる相談ごとには、同じ市民である民生委員・児童委員などが応じています。また、地域社協(福祉の会)やボランティアなど、さまざまな形で市民自らが地域の問題に関わることで、地域福祉力も向上します。

子どもからお年寄りまで、誰もが安心して、住み慣れた場所で生活を送るために、今、市民同士の支え合いが必要とされています。



地域イベントでも、ちょっとした相談役になります

民生委員・ 児童委員

民生委員とは、民生委員法に基づいて委嘱された非常勤の特別職地方公務員で、児童福祉法により児童委員も兼ねています。その業務は多岐にわたり、地域住民の身近な相談窓口として活動しています。

例えば「介護保険の申請方法が分からない」「もうすぐ出産だが地域に知り合いがいなくて不

安」「隣の家のお年寄りが困っている様子」など、日常のちょっとした不安や困りごとなどを受け止めて、行政への橋渡しをしてくれるのが民生委員の役割。地域の相談役として、市民の生活をサポートします。

現在、武蔵野市内では98人の市民が民生委員を務め、地域ごとに担当しています。月に1

回民生委員の会議が開かれ、ここで報告された行政からの情報を取りまとめ、市民へ伝える役目も担っています。何か困ったことがある場合は、お住まいの地区を担当する民生委員に声をかけてみましょう。



相談の事例

向かいのアパートのおじいさんを最近見かけません。

→ 地域包括支援センターに連絡を取り、けがで入院中であることが分かりました。

母が車いす生活になり家を改修したいが、資金が足りません。

→ 在宅介護支援センターを紹介していただき、介護保険で住宅改修ができました。

育児中ですが、相談できる相手がなくて毎日が不安です。

→ 福祉の会の子ども広場を紹介してもらい、子育て中の友達ができて不安も少なくなりました。その後も民生委員・児童委員さんが、折に触れ訪ねてくれるので心強いです。

● 民生委員・児童委員の方に聞きました

民生委員・児童委員から

民生委員・児童委員は、皆さんと同じ地域住民です。いつも、皆さんと同じ目線で地域を見守ることが重要だと思っています。また、市から委嘱されている“社会福祉協力委員”として災害時要援護者や独居高齢者の訪問調査も行っています。

普段のちょっとした立ち話から、困りごとや不安の相談に乗ることもありますし、いじめ問題や生活困窮など難しい問題に直面することもあります。少しでも相談者の力になれるよう取り組んでいます。心配ごとがあったら「早めの相談」をお勧めします。これからも、地域に寄り添って活動していきたいと思っています。よろしくお願いします。



吉祥寺本町
小美濃純彌さん

小さなトラブルを解決できる喜び

民生委員は22年目。地域環境には恵まれており、難しい相談事はあまりありませんが、子どもを狙った犯罪が増えており、見守り業務も増えています。高齢者の方からの相談を受け、解決した時のホッとした顔を見るとやりがいを感じます。

ちょっとした問題でもぜひ声をかけて！

平成24年から民生委員を務めています。一人住まいの高齢者の方を見守ったり、介護保険制度の相談を受けたりと、活動はさまざまです。民生委員は親身になってご相談をお受けしますので、困った時は声を掛けてください。きっと力になるはずです。



西久保
深井ふくよさん

赤十字奉仕団



敬老の集いでの来場案内

赤十字奉仕団は、地域を支える団体として、さまざまな奉仕活動を行っています。武蔵野市の赤十字奉仕団が設立されたのは、昭和24年。戦後、生活困窮者のための食事を配食していた「愛のスープ運動」が発端だと言われ、武蔵野市の地域福祉活動の先駆けです。現在、652名の団員が所属し、地域ごとに13分団に分かれて活動しています。

その活動として知られているのは、一人暮らしの高齢者などを訪問する「友愛訪問」や敬老福祉の集いなどの「敬老事業」ですが、そのほかにも老人福祉施設や病院、養護施設などでの清掃や布団、衣類のメンテナンスなど、日常生活をサポートしています。市民が気軽に参加できるボランティア団体ですので、皆さんの参加をお待ちしています。



救護訓練指導



炊き出し訓練

● 赤十字奉仕団の団員の方に聞きました



第3分団 団長
小峰ヒデ子さん

人に喜んでもらえる活動を

武蔵野赤十字病院で院内の案内をしたり、養護施設で洋服の名札付けやぞうり袋を制作したりと、活動内容はさまざまです。スタッフも高齢化しており、老人福祉施設の清掃など、体力が必要な活動は大変ですが、元気で人のために働けることが喜びです。

先輩方とさまざまな活動に参加

団員は比較的女性が多いため、炊き出しなどの釜の搬出入、沸騰したお湯など重量のあるもの、危険な物の取り扱い作業など、分団の隔たりなしに行っています。幅広い活動の中、性別、年齢に関係なく受け入れてくれる先輩方に感謝しています。



第1分団
竹内直朗さん

保護司

保護司法に基づく非常勤の国家公務員として、過去に罪を犯した人の生活を見守り、社会復帰を支援するのが保護司です。社会奉仕の使命を担い、罪を犯してもやり直すことができる社会を目指して活動しています。

現在、武蔵野市内で保護司として活動している市民は27名。ボランティアとして活動しています。犯罪に陥らない社会をつくるための「社会を明るくする運動」なども実施し、市民が安心して暮らせる環境を守るために、日々活動しています。

● 保護司の方に聞きました



主に東部を担当
小美濃晃子さん

更生を支援するために自らの勉強も欠かさず

平成10年に保護司に就任しました。支援活動はどんなケースでも大変ですが、その後年賀状が送られてきたり、結婚の報告をもらえたりすると、やってよかったと思います。勉強会や管外研修にもできるだけ参加して、ほかの保護司の方とも情報交換を心がけています。

相談するには？ 支援をするには？

今回紹介したように、市民の安心した生活を支えるため、同じ市民が地域で活動しています。日頃の生活の中で困ったことがある方は、下記まで相談ください。また可能な方は、地域の方のために、あなたの力を少しでも貸してください。

〔相談するには？〕

日常生活の中でちょっとした困りごとを感じている方は、お住まいの地域の民生委員や地域社協スタッフに相談してみましょう。

民生委員の連絡先は、「わたしの便利帳」などで確認するか、地域支援課までお問い合わせを。地域社協については武蔵野市民社会福祉協議会(☎0422-23-0701)にお問い合わせいただくか、同会のホームページで確認を。

〔支援をするには？〕

今回ご紹介した赤十字奉仕団や地域社協は、ボランティアによって構成されています。イベントの運営から衣類の針仕事まで、大小さまざまな活動を行っていますので、「地域のために何か活動をしたい」という方は、地域支援課にご連絡ください。

問い合わせ先

地域支援課 ☎60-1941

地域社協 (福祉の会)



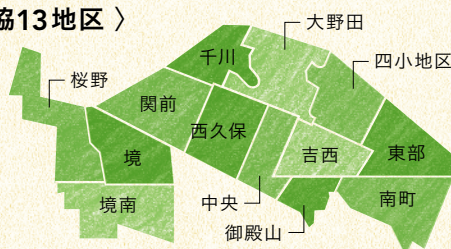
地域住民同士の交流の場づくり

「地域社協」とは「地域福祉活動推進協議会」の略称。住民同士が協力し、「ささえあいのまち」を実現するために結成された、非営利の住民組織です。

地域社協は、平成7年から順

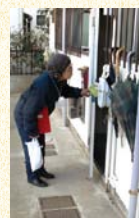
次設立され、おおよそ小学校区を目安に13の地区があります。地区ごとに地域住民がボランティアとして参加し、きめ細やかな住民同士の助け合い活動を行っています。

〈地域社協13地区〉



災害時要援護者対策事業

災害時に安否確認が必要な高齢者、障害者などを対象とした支援です。地域社協メンバーが中心となって近隣住民に支援者を募り、要援護者1人につき地域住民2人が支援者となって災害時の安否確認を行います。皆さんもぜひ支援者としてご協力をお願いします。



● 地域社協の方、参加された方に聞きました



吉西福祉の会
八木 詢子さん

子育て世代から高齢者まで支援

吉西福祉の会は、高齢者の方を対象とする「ふれあい部会」、子育てを支援する「子育て部会」、防災まつりなどを開催する「防災部会」、回覧板などを発行する「広報活動」の4本柱を中心に活動しています。近所の声かけなども行っています。

地域の知り合いも増えました

姉に誘われ、吉西福祉の会の「ひろばひよこ」に参加しました。子どもがまだ3カ月の頃から、何度も利用しています。スタッフの方に手遊び歌を教えてくださいたりして、子どもも楽しそうです。何度も参加するうちに顔見知りのママも増えました。



「ひろばひよこ」利用
坂田 朋子さん